

俺ってまんざらでもないなあ／自分への気づき

中学生のころ（青年期前期）はそれまでの自己イメージが揺らぎ、自我意識の高まりに伴って「自分」にどう折り合いをつけるか模索している時期といわれます。

そのような風波の中、学校生活における日常の出来事が思わぬ引き金となって、ときに不登校などの形で集団生活への不適応が表れることがあります。

このようなとき、考えられる対応の一つに、周りからの働きかけによって「自分への気づき」を促すことが挙げられます。それは、**他人は知っているが自分では気づいていない「よさ、持ち味」**について冷静に考えさせることです。この気づきは、「そうか、俺って～。」など自分自身の肯定や自信につながり、変化のきっかけになり得るものです。そして、その延長上には自分を大切にする姿があります。



伝聞の効果 / 陰ほめマジック

だれもが経験のことと思います。我が事をほめられるとき、目の前の相手の評価により直接ほめられるのも嬉しく元気が出ますが、第三者によるほめを伝聞として耳にするときの心地よさといったらマジックともいえるほどです。俄然、自己効力感と意欲が湧いてくるのですから。これは小学生から経験豊富な大人にまでその効力が期待できるのですから不思議です。

思い起こしてみれば、ときには虚構も織り交ぜながらこの“マジック”を駆使して子どもに自信を持たせて、意欲を上手に引き出している先輩がいました。

翻って、昨今の学校現場では、心の教育において「心ない陰口の根絶」が課題の一つとなっております。ことに、SNSの急速な普及も加わり対応の難しさが増していることに心が痛みます。



シリーズ 家庭教育ノート ～小・中学生の保護者向け～ (文科省／山形県版(平15)より)

全6章を、月に1章ずつの分割で掲載中です。

第2章 しつけ・子どもの非行

正しいしつけは、子どもへの最大の贈り物。

- (1) ずいぶん厳しく叱られたけど、今はそれを感謝している。
- (2) 感情にまかせて叱ることとしつけとは違う。
- (3) いきなりに見えても、サインは出ている。
- (4) いうことをきかないのは、子どもの自立が始まった証拠。
- (5) 酒、タバコぐらいは大したことはない、と思っていないですか。
- (6) 子どもはSOSがうまく言えない。
- (7) 幸せとは手に入れるものではなく、今こうして生きていることかも。



体験活動から

シャイニングクラスでは、5教科（国、社、数、理、英）と体育の通常日課に加え、年間23回（ほぼ隔週）の体験活動でカリキュラムを構成しています。

この度は、6月16日（木）に、将来の進路選択に対する意識を高めることを主なねらいとしたキャリア教育で2つの事業所を訪問させていただきました。

(1)新庄コアカレッジ(コンピュータ学校)

生徒の関心が高いゲームソフトの制作を例に、産業界において求められているIT技能などについてお話しをお聞きました。



教室の授業の様子を見学



福祉コースの実習教室で

(2)鮭川村・安彦バラ園

温度や二酸化炭素濃度など栽培環境のコントロールにコンピュータを使っている様子も見せていただきました。



まずは、概要の話をききます



栽培されているハウスで

実社会における産業（職業）に対する知識・理解を深めて、将来の進路に対する考えを一步進める機会となりました。また、代表者の事業展開や生き方に対する“熱いハート”に触れることができたことは、今後、進路を考えていく上で励みになりそうです。

トピック

～山形新聞 6/11「気炎」から要旨引用～

アドバンテージ(優位性)にすがりつかない知的な勇気

教育や支援におけるモチベーションの高め方においては、対象（目の前の児童生徒）のあれこれを柔軟に想定し、相性を越えた“者間距離（かかわり）”で潜在する阻害要因に対処する専門性（指導技術）が求められます。「立場の優位性に頼らない向き合い方」は、人間関係一般にも通じる本質をなすものようです。

6月の活動

シャイニングクラス在籍 4名

< シャイニングクラスの学習 >

- 月曜日 理科、国語
- 水曜日 社会、英語
- 木曜日 体験活動（月2回）
- 金曜日 数学、体育

- ◇体験活動④ 6月16日（木）**キャリア教育-I**
- 体験活動⑤ 6月23日（木）**理科実験講座-I**
- ◇「気楽に話し合う会」- 第2回
6月17日（金）
分ち合い、学び合い、支え合う勉強会でした。

教育相談連絡先

○ダイヤルなんでも相談
TEL 23-7266

○適応指導教室（シャイニング）
TEL 22-2111
（内線 445、448）

林、小野、荒木が担当です。